

1. 大会についての概要

- 開催日【6/1（木）～4（日）】国際大会の開催期日の関係で、昨年より1週間早い日程となった。
本年もU20との同時に開催となり、4日間開催となった。また、本年も最終日にオープン競技として小学生・マスターズ・パラリレー・デフの種目を実施した。
- 自己記録
男子36、女子30、U20では男子41、女子37の自己記録がでた。
- 大会記録
男子800m、男子1500m、男子110mH、女子三段跳の4種目で6つ樹立された。
- 日本記録
男子110mHと女子三段跳の2種目で日本記録が樹立された。
- ブダペスト世界陸上内定
今大会で新たに男子3名が内定。
- 観客数
 - ・1日目（3443人）2日目（1666人）3日目（4040人）4日目（7814人） 合計（16,963人）
 - ※新規入場者のみ（参加チームAD入場・関係者除く）の数、昨年は11,812人
 - ・6/1（木）近隣3小学校561名を会場に招待
- 視聴率

6/1（木）	BS1	18:00～19:50	0.8%	（BSは×7すると地上波の感覚値）
6/2（金）	総合	19:30～20:42	7.7%	
6/3（土）	総合	16:30～18:43	4.8%	
6/4（日）	総合	16:30～18:43	6.3%	

2. 競技運営等にかんして

- ・JTOの指導の下、2日目の悪天候での競技日程の変更以外は、大きなトラブルなく実施できた。
- ・2日目（6/2（金））悪天候により、跳躍種目はすべて3日目に、投てき種目はU20の男子円盤投と女子やり投の2種目を3日目に順延した。
審判員及び補助員を急遽増員し、実施することができた。（役員係及び審判員の連携により実現）
- ・3日目、練習会場のヤンマーフィールド長居でU20の投てき種目の競技を実施した為、投てき審判員・練習場係・選手には負担をかけた。
- ・女子100mH決勝において、ライブリザルトの際に4位の選手を1位と表示した（判定中のものが瞬時に電光に表示されるシステムであった）。誤りに気付いた電光係が、すぐに画面を切り替え、15秒後に正しい結果を表示した。世界陸上の代表を決めるレースであった為、メディアにも取り上げられる事象となった。ライブリザルトの表示は選手や観客の為に推奨されているため、本大会においてもこの方針で運用していた。関係部署（総務・進行・アナウンス・電光等）との連携、対応方法の検討を重ねる。
- ・トラック進行に関して、シニア種目の予選等において4組以上の場合は、招集を2組ずつ分けていたが、3組から分けた方が良いと思われる。（1レース7～10分間隔で実施されるので、3組目は現地ですぐに20分近く待機することになる為。）
- ・U20との同時開催については、競技日程の問題やU20の開催時期の問題、4日間開催による審判員の負担の問題等の意見を多数聞く。3年を終えた段階で、課題を整理していただき。U20の選手にとって一番よい大会を考えていただきたい。

3. 抗議（質問）等にかんして

- ・質問（ビデオ確認）は2件あったが、抗議はなかった。